

第4学年2組 外国語活動学習指導案

場所 4年2組教室
授業者

1 単元名 Unit7 What do you want?(文部科学省『Let's Try!2』)

2 単元の目標

食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しみ、考えたメニューを紹介し合う。

3 単元について

(1)教材観

本単元は、児童にとって身近で関心のある食べ物について扱っており、オリジナルのパフェやピザを考えて紹介する活動が設定されている。また、欲しい物を尋ねる表現 What do you want?は3年生から慣れ親しんできた表現であることを踏まえ、I want (potatoes), please.と文表現で答えることができるようにしている。フレーズではなく文表現で、より日常会話に近いやり取りをさせることで、言葉で通じ合うことの楽しさを感じさせるとともに、外国語科の学習において、文構造への気付きにもつながっていくことが期待される。

(2)児童観

本学級の児童は、4年生の外国語活動も後半に入り、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、友達や指導者と簡単なコミュニケーションを図る経験を積み重ねてきた。チャンツや簡単なゲーム、言語活動などに意欲的に取り組んだり、新しく知った英語の表現を積極的に使おうとしたりするなど、外国語の学習に対して前向きに取り組む児童が多い。しかし、意味が理解できず戸惑ったり、自信がもてず話し出せなかったりする児童も見られる。

(3)指導観

指導にあたっては、児童が英語で伝えたいような言語活動の具体的な目的・場面・状況を設定し、児童が進んで言語活動に取り組めるようにする。外国語に慣れ親しむ活動であることを意識し、全て理解できなくてもよいことや、ジェスチャーを使ったり聞き直したりしてもよいことを伝えていく。また、本時のめあてを確認したり、CAN-DOリストに基づいたチャレンジシートを使ったりして、「聞くこと」、「話すこと」に関する自分の達成度を振り返ることで、自分の達成感や相手に伝える喜び、伝え合う楽しさを実感できるようにしていく。一方的なやり取りで終わらせずリアクションをすることで、コミュニケーションの楽しさを味わわせたい。

4 小中連携の視点

- ・食文化のトピックは、中学校第2学年の教科書のUnit2で扱われており、「日本や外国の料理を知り、食文化の歴史や変化について考える」を題材とし、食文化に触れる単元が出てくる。ここで、小中の学びの接続があると考えられる。
- ・同学区内で共有されているCAN-DOリストを用いたチャレンジシートを活用に取り組んでいる。単元の導入で児童とチャレンジシートの内容を共有し、振り返りの場面で活用する。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	欲しい食材などを尋ねたり要求したりする話を聞き取っている。	欲しい食材などを尋ねたり要求したりする話を聞き取ろうとしている。
話すこと 〔発表〕	食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を用いて、話すことに慣れ親しんでいる。	自分が作ったパフェやピザについて、相手に伝わるように工夫しながら話している。	自分が作ったパフェやピザについて、相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。

6 単元の指導計画（全5時間）

時	目標◆/活動○/言語活動のテーマ※	評価			
		知	思	主	◎評価規準〈評価方法〉
1	◆単元の学習の見通しをもつ。 ◆食材の言い方や欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。				
	○Small Talk ○Let's Watch and Think ○Activity1 ○Let's Chant ○単元のゴールの共有 ○チャレンジシートの共有				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	◆欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 ※自分が食べたいフルーツパフェを作る。				
	○Small Talk ○Let's Chant ○Let's Play おはじきゲーム ○Activity1 ○Let's Listen1 ○Let's Listen2 ○チャレンジシート	聞			◎食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を聞くことに慣れ親しんでいる。（観察）
3	◆フルーツパフェについて紹介したり、欲しい物を尋ねたり要求したりして伝え合う。 ※自分が食べたいフルーツパフェを紹介する。				
	○Let's Chant ○Activity1 ○チャレンジシート	話 （発）			◎食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を用いて、話すことに慣れ親しんでいる。（観察）
4 （本時）	◆食材について欲しい物を尋ねたり答えたりして伝え合う。 ※東小の先生のためにピザを作る。				
	○Let's Chant ○Activity2 ○チャレンジシート		聞	聞	◎欲しい食材などを尋ねたり要求したりする話を聞き取っている。（観察） ◎欲しい食材などを尋ねたり要求したりする話を聞き取ろうとしている。（観察）

5	<p>◆相手に配慮しながら、自分のオリジナルピザを紹介しようとする。</p> <p>※東小の先生のために作ったピザを紹介する。</p> <p>○Let's Chant ○Activity2 ○チャレンジシート</p>		話 (発)	話 (発)	<p>◎自分が作ったパフェやピザについて、相手に伝わるように工夫しながら話している。(観察)</p> <p>◎自分が作ったパフェやピザについて、相手に伝わるように工夫しながら話そうとしている。(観察)</p>
---	--	--	----------	----------	--

7 本時の目標

東小の先生のためのピザの食材を集める活動を通して、欲しい物を尋ねたり答えたりする話を聞き取っている。

8 指導過程

段階	学習活動・学習内容	時間 (分)	○指導上の留意点 評価
導入	1 Greeting, Daily Questions	5	○毎時間行っている英語でのあいさつを行い、外国語活動を始める雰囲気を作る。 ○本時の活動を意識し、チャンツで表現の復習をする。 ○児童とのやり取りを通して、ピザへの興味関心を高めることができるようにする。 ○具体的な場面や状況を話題に出し、本時のめあてへつなげるようにする。
	2 Let's Chant		
展開	3 Small Talk ・ What pizza do you like? ・ What do you want? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">Today's goal (めあて) 東小の先生のために、オリジナルピザを作ろう。</div>	35	○ピザを作るやり取りのビデオを視聴し、活動の目的意識と見通しをもてるようにする。 ○児童から挙げられそうな食材を予想し、食材の絵カードを用意しておき、提示する。 ○注文書を見て、自分が集めたい食材を明確にしてから活動にうつるようにする。 ○カードを切る時間を省き、活動の時間を確保するために、人数分の食材が書かれたカードを準備しておく。 ○渡す食材がない場合や複数枚欲しい場合の言い方を確認しておく。 ○活動の途中で中間指導を行い、これまで慣れ親しんだ表現やリアクションができていないペアを紹介し、活動の流れを確認できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">欲しい物を尋ねたり答えたりする話を聞き取っている。(行動観察)</div>
	4 Activity 2 (1) 指導者がケリス先生と志賀先生のために作ったピザの食材を知る。 (2) 食材の言い方を練習する。 (3) 東小の先生が食べたいピザを知る。 (4) ビデオで言い方を確認し、練習する。 (5) 食材を集める。 C 1: What do you want? C 2: I want Tomatoes, please. C 1: Sorry. I have onions. C 2: Oh! I want an onion, please. C 1: Here you are. C 2: Thank you. (6) 集めた食材をワークシートに貼り、オリジナルピザを作る。		
ふり 返り	5 Today's comment (1) 本時の振り返りをチャレンジシートに記入する。 (2) 次時の見通しをもつ。	5	○がんばったことやがんばりたいこと、真似したい友達の姿について振り返ることができるようにする。 ○次時は、作ったピザを紹介することを伝え、次時への意欲をもたせる。